

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)	—			
主な取組	しまくとぅば普及継承事業	実施計画 記載頁	48	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	しまくとぅばを次世代へ継承するため、効果的な普及推進の方策等について、有識者による議論・検討を実施し、研究者や活動団体等関係者のネットワークの構築を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	しまくとぅばの効果的な普及推進の方策等について有識者等による議論・検討を実施					→	県
	研究者や活動団体等関係者のネットワークを構築						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	95,982	87,978	条例制定10周年記念イベント、しまくとぅば県民大会及びしまくとぅば語やびら大会等を開催し、延1,120人が参加した。(平成28年9月17,18日等)	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
活動団体等関係者のネットワークの構築			—	4件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	8月及び3月にしまくとぅば普及推進専門部会を開催した。また、10月にハワイ語復興をテーマとした世界のウチナーンチュ大会関連イベントに、11月に文化庁の「危機的な状況にある言語・方言サミット(与論大会)」等に参加し、各研究者や文化団体と議論をすることで、ネットワークの構築が図られた。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
しまくとぅば普及継承事業	54,185	普及推進のために、「第5回しまくとぅば県民大会(9月予定)」や「しまくとぅば人材養成講座(10カ所)」を開催し、「しまくとぅば読本」(3万5千部)を増刷するとともに、しまくとぅばの普及に取り組む民間団体への支援も行う。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①有識者からなる普及推進専門部会の意見を踏襲し、平成25年度に策定した「しまくとぅば普及推進計画」(平成25年度～平成34年度)に基づき、運動を実施する。</p> <p>②普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を、毎年実施する。</p> <p>③県民運動の取組を広く周知するため、路線バス内でしまくとぅばアナウンス等を実施する。</p> <p>④今年度は、市町村文化協会や話者育成を行っている民間団体等を集め、情報交換や連携を促す機会を設ける。</p>	<p>①県民大会の開催、小中学校への「しまくとぅば読本の配付」等を行うとともに、新たに人材養成講座を行うなど、しまくとぅばの普及推進を図った。</p> <p>②平成28年度は、前期行動計画の事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を実施した。</p> <p>③県民運動の取組を広く周知するため、路線バス内でしまくとぅばアナウンス等を実施した。</p> <p>④行政、普及団体、民間企業等からなる、しまくとぅば普及推進専門部会を開催し、情報交換や連携を行った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,982人 (23年度)	10,159人 (28年度)	16,500人 (28年度)	8,177人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>条例制定10周年イベント及び普及啓発CM連携イベントに420人、第4回「しまくとぅば」県民大会に220人、「しまくとぅば」語やびら大会に延べ480人が参加した。</p> <p>平成28年度には、しまくとぅば体験イベント等参加者の累計は10,159人となった。</p> <p>これまで、10ヶ年の『「しまくとぅば」普及推進計画』に基づき、各種イベントの開催や、学校でのしまくとぅば読本の活用を働きかける他、市町村文化協会と連携し話者を活用した取組を推進してきた。今後は、成果指標を「しまくとぅばを挨拶程度以上、話せる人の割合」に変更し、引き続き「しまくとぅば」の普及・継承に取り組んでいく。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p>
<p>○外部環境の変化</p> <p>・県民のしまくとぅばの使用頻度は低下傾向にあり、若年層ほどその傾向は顕著になっていることから、今一度しまくとぅばの重要性を認識し、しまくとぅばを普及するため、どのような方法が効果的なのかを有識者からなる普及推進専門部会の意見等も踏まえ、検討しなければならない。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・しまくとぅば体験機会の創出による事業効果を検証するため、調査等を行う必要がある。</p> <p>・しまくとぅばの話者が少なくなっているが、しまくとぅばは各地域で異なるため、その多様性を尊重しつつ、各地域において、しまくとぅばの普及に携わる人材を養成する必要がある。</p>
--

#### 4 取組の改善案(Action)

・普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を実施し、どのような方法が効果的なのか、普及推進専門部会の意見等も踏まえ検討していく。

・各地域で「しまくとぅば人材養成講座」を行い、各地域でしまくとぅばの普及に携わる人材を養成する。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承			
(施策の小項目)				
主な取組	しまくとぅば体験機会の創出	実施計画 記載頁	48	
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	しまくとぅばを次世代へ継承するため、「しまくとぅば県民大会」や「しまくとぅば語やびら大会」を開催することにより、しまくとぅばの普及推進を図る。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		しまくとぅばに関するイベント等の開催 「しまくとぅば語やびら大会」(沖縄県文化協会主催)の 開催支援				→	文化協会 NPO法人等
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
しまくとぅば 普及継承事業	95,982	87,978	条例制定10周年記念イベント、しまくとぅば県民大会及びしまくとぅば語やびら大会等を開催し、延1,120人が参加した。(平成28年9月17,18日等)	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅばに関するイベント等の開催			—	年5回
しまくとぅば語やびら大会の開催 等			—	年1回(22回目)
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	「しまくとぅば」県民運動の一環として、9月に条例制定10周年記念イベント、「しまくとぅば県民大会」及び「語やびら大会」を開催し、普及啓発CM関連イベントを年間5回開催するなど、県民がしまくとぅばに触れる環境を創出した。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
しまくとぅば 普及継承事業	54,185	普及推進のために、「第5回しまくとぅば県民大会(9月予定)」や「しまくとぅば人材養成講座(10カ所)」を開催し、「しまくとぅば読本」(3万5千部)を増刷するとともに、しまくとぅばの普及に取り組む民間団体への支援も行う。	一括交付金 (ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①各地域で「しまくとぅば講師育成講座」を行い、各地域の「しまくとぅば講師」を育成した。</p> <p>②普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を、毎年実施する。</p>	<p>①県内10地域で「しまくとぅば人材養成講座」を行い、322人が受講した。</p> <p>②前期計画の事業効果を検証するため、平成25年度調査から3年後の、平成28年度に、しまくとぅば県民意識調査を実施した。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,982人 (23年度)	10,159人 (28年度)	16,500人 (28年度)	8,177人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>条例制定10周年イベント及び普及啓発CM連携イベントに420人、第4回「しまくとぅば」県民大会に220人、「しまくとぅば」語やびら大会に延べ480人が参加した。</p> <p>平成28年度には、しまくとぅば体験イベント等参加者の累計は10,159人となった。</p> <p>これまで、10ヶ年の『「しまくとぅば」普及推進計画』に基づき、各種イベントの開催や、学校でのしまくとぅば読本の活用を働きかける他、市町村文化協会と連携し話者を活用した取組を推進してきた。今後は、成果指標を「しまくとぅばを挨拶程度以上、話せる人の割合」に変更し、引き続き「しまくとぅば」の普及・継承に取り組んでいく。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p>
<p>○外部環境の変化</p> <p>・県民のしまくとぅばの使用頻度は低下傾向にあり、若年層ほどその傾向は顕著になっていることから、今一度しまくとぅばの重要性を認識し、しまくとぅばを普及するため、どのような方法が効果的なのかを有識者等からなる普及推進専門部会の意見等も踏まえ、検討しなければならない。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・しまくとぅば体験機会の創出による事業効果を検証するため、調査等を行う必要がある。</p> <p>・しまくとぅばの話者が少なくなっているが、しまくとぅばは各地域で異なるため、その多様性を尊重しつつ、各地域において、しまくとぅばの普及に携わる人材を養成する必要がある。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

<p>・普及推進計画は、3年ごとに前期、中期、後期と分けられており、その事業効果を検証するために、しまくとぅば県民意識調査等を実施し、どのような方法が効果的なのか、普及推進専門部会の意見等も踏まえ検討していく。</p> <p>・各地域で「しまくとぅば人材養成講座」を行い、各地域でしまくとぅばの普及に携わる人材を養成する。</p>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
施策	①しまくとぅばの保存・普及・継承		
(施策の小項目)	—		
主な取組	沖縄文化活性化・創造発信支援事業	実施計画 記載頁	49
対応する 主な課題	○沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にある。		

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成などに対する費用を補助する。加えて、PDCAサイクルによる事業評価システムを導入し、補助事業の成果の充実及び効果的な支援をし、「沖縄版アーツカウンシル」のあるべき姿を構築する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	1件以上 助成件数	1件以上	1件以上	2件以上	2件以上	→	企業 NPO法人 等
	しまくとぅばの保存・普及・継承に関する事業を支援						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	133,185	125,091	しまくとぅばは、沖縄文化の基層であることから、歌三線や組踊等の伝統芸能に関する事業を支援することにより、しまくとぅばの保存・普及・継承につなげた。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
しまくとぅばの保存・普及・継承に関する事業を支援			2件	2件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	歌三線等の担い手育成や組踊の普及に関する事業を支援することにより、沖縄文化の基層であるしまくとぅばの保存・普及・継承に一定程度資することができた。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
—	—	—	—

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成29年度の取組改善案	反映状況
①応募から事業執行まで事業者へ丁寧に、事業の考え方、取組方法など助言指導を行い、事業者の掘り起こしを図る。また、北部や離島等でも、事業説明会等を行う。	①4月に宮古・八重山地区で事業説明会を開催したほか、同地区への新聞社への広報や、北部地域の市町村等への事業説明を行い、応募事業者の掘り起こしを図った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
しまくとぅば体験イベント等参加者(累計)	1,982人 (23年度)	10,159人 (28年度)	16,500人 (28年度)	8,177人	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	引き続き、伝統芸能に関する事業を支援することにより、成果指標の達成につなげる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><u>○内部要因</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能の保存・普及・継承に向けた取組を行う団体が持続的な活動ができるように、助言指導などハンズオン支援を行う必要がある。</li> </ul> <p><u>○外部環境の変化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・応募状況に地域差があり、北部や離島からの応募が少ない。</li> </ul>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全県的に伝統芸能の公演等が活発に行われ、しまくとぅばの普及につながるよう、引き続き北部や離島等でも伝統芸能の保存・普及・継承に向けた取組の普及を図る。</li> </ul>
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全県的に伝統芸能の公演等が活発に行われ、しまくとぅばの普及につながるよう、伝統芸能の保存・普及・継承に向けて、北部や離島等でも県の文化芸術振興施策の広報を図る。</li> </ul>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	②伝統行事の伝承・復元			
(施策の小項目)	—			
主な取組	地域文化継承支援事業	実施計画 記載頁	49	
対応する 主な課題	○各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	地域の伝統行事の伝承・復元を目指し、県内各地で実施されている伝統芸能、伝統行事等の調査・情報収集を行う。文化年鑑の作成については類似の冊子との差別化を調整しつつ、作成を検討する。また、各地域の伝統行事・芸能等をテーマに文化講演(シンポジウム等)を開催する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体  県文化振興会
	伝統芸能等のデータベース情報収集・作成			3回以上 シンポジウム開催	→	→	
	沖縄県文化年鑑の作成(各年度)			各地域でのシンポジウム等の開催			
	文化講演の実施			1回以上 公演回数	→		
				地域の伝統芸能を集めた公演			
	担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課					

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
地域文化継承支援事業	9,723	8,748	県内各地域の伝統行事、伝統芸能、しまくとぅば等の普及・継承についての文化講演としてシンポジウムを3回実施し、計274名の来場者があった。また文化講演会100名、意見交換会に計65名の来場者があった。また、普段は地域の祭事等でしか披露されていない、各地域の伝統芸能を一カ所に集め、国立劇場おきなわで披露する公演「特選沖縄の伝統芸能」を実施した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
シンポジウム開催件数			3回	3回

様式1(主な取組)

推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果
順調	離島を含む県内3地域(国頭村、津堅島、南城市)でその地域の伝統行事や伝統芸能をテーマに文化講演(シンポジウム)を行い、地域の伝統行事等の発信及び活性化を図った。 また、県内各地域で披露されている伝統芸能、伝統行事を国立劇場おきなわで披露する公演を行い、他地域との比較や交流を行うことで、自らの地域の伝統芸能等の重要性の再認識が図られた。

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
地域文化継承支援事業	9,723	各地域の伝統芸能を集め「特選 沖縄の伝統芸能」として国立劇場おきなわで公演を行うとともに、地域の文化・伝統芸能等に関するシンポジウムを3回及び文化講演会を2回開催する。	県単等

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
①各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する。 ②各市町村文化協会や文化関連団体等を集めた文化講演会及び意見交換会を開催し、ネットワークの強化を図る。	①各地でのシンポジウムを3回開催した。地元の方をメインにパネリストを構成し、また各地域の伝統芸能のデモンストレーションも含めたプログラムにしたことから、地域住民が活発に意見を交わす姿が見られた。 ②文化講演会及び意見交換会では、今後の文化関連団体のネットワークを強化していくべきであるという共通認識が図られた。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
シンポジウムの参加者数等	274名 (26年度)	470名 (27年度)	439名 (28年度)	→	—
状況説明	平成28年度はシンポジウム3回、文化講演会及び意見交換会を開催し、より多くの地域の住民に考える機会を提供できた。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の住民が、自らの地域の伝統行事・伝統芸能の重要性や価値を共有できていない。</li> <li>・地域文化継承に関して、文化関連団体間の横の連携が取れていない。各地の取組について情報交換できるような場がない。</li> </ul> <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・娯楽の多様化に伴い、自らの地域の伝統行事・伝統芸能への関心が薄れている。</li> </ul>
--

## 様式1(主な取組)

### (2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムを開催する必要がある。
- ・地域文化の普及継承に携わる各団体の連携を強化するため、情報交換の場を提供し、今後の地域文化の普及継承に対する機運醸成を図る必要がある。

## 4 取組の改善案(Action)

- ・引き続き各地域の特色・違いを再発見してもらい、愛着を持ってもらうため、文化の基層であり、地域ごとに特色がある「しまくとぅば」を絡めたシンポジウムや、地域の伝統芸能等を集めた公演を開催する。
- ・各地にそれぞれ共通して伝わる伝統芸能のうちの一つをテーマに取り上げ、複数の地域を招いて、その比較・検証をとおして、自身の地域の伝統文化を見つめ直すことのできる文化講演会を開催する。

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	② 伝統行事の伝承・復元			
(施策の小項目)	—			
主な取組	デジタルミュージアム推進事業	実施計画 記載頁	49	
対応する 主な課題	○各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	無形遺産のひとつである伝承話の記録を保存・継承・活用するため、収集した沖縄各地の伝承話音声資料のデータベースを作成する。その中から選定した優良民話をもとに動画コンテンツを制作、デジタルミュージアムを開設してwebや展示室で公開する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
					デジタル民話データの整理・調査	→	県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
デジタルミュージアム推進事業	9,668	8,548	収集した伝承話音声資料について、目録及びデータベースを作成、その中から優良民話80話を選定した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
選定した優良民話数			-	80
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	カセットテープ及びデジタルデータに記録されている3.3万件の伝承話音声資料のデータベースを作成し、選定委員会により動画コンテンツ化候補として優良民話80話を選定した。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画				
事業名	当初予算	活動内容		主な財源
デジタルミュージアム推進事業	6,990	選定された優良民話80話から、伝承話の内容や地域性等を基準に6話の動画コンテンツを制作する。		一括交付金(ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
—	①地域機関との連携をもって、効率的かつ発信力をもった動画コンテンツの制作を行う必要がある。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	民話の伝承者やこれを調査した方が高齢化していく中、貴重な音源を生きた資料として保存し、広く活用できるよう動画コンテンツとして発信することにより、民話の伝承及び失われつつあるしまくとぅばの再生につなげる。平成28年度は3万3千件の音声資料を確認し、地域、内容、話者等の属性を含めデータベース化し、特に優良な民話を80話選定した。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・80話から動画コンテンツを作成する民話をさらに選定するにあたり、ビジュアル化に適した民話選ぶ必要がある。</li> <li>・民話について、さらに内容調査(時代考査、原画制作の場面設定)、方言の監修、話者への配信許可を得る必要がある。</li> </ul> <p><b>○外部環境の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の伝承者が失われつつある中、内容調査を早急に行う必要がある。また、効果的な発信の方法をさらに検討する必要がある。</li> </ul>
---

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・その地域の歴史や文化を物語る伝承話を魅力的に伝える動画コンテンツを作成する。民話の選定に関する基準を策定し、コンテンツ作成にあたり、有識者へ監修を依頼する。</li> </ul>
---

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画作成選定・作成にあたり、時代考査や当時の文化等について現地調査を行う。</li> <li>・誰もが楽しみながら民話に触れられるよう民話の内容や地域から6話をバランス良く選出し、方言と共通語の両方で楽しめる動画を作成する。</li> </ul>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	②伝統行事の伝承・復元			
(施策の小項目)	—			
主な取組	沖縄食文化の保存・普及・継承	実施計画 記載頁	49	
対応する 主な課題	○各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化や歴史に培われてきた沖縄特有の食文化を保存・継承するとともに、伝統的な食文化を活用して沖縄文化の魅力を県内外に発信するための調査・検討を行い、食文化のあるべき姿、進むべき方向性を明確にする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
					年4回程度検討 委員会の開催  食文化の保 存・普及・継承		県
担当部課	文化観光スポーツ部文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄食文化 保存・普及・ 継承事業	9,183	9,142	有識者による沖縄の食文化に関する検討委員会を設置し、今後5年間の普及推進計画を策定した。	県単等
活動指標名			計画値	実績値
食文化に関する展示会来場者数			—	1,954人
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	平成27年度の有識者検討委員会で検討された伝統的な食文化の定義付けや、取組方針案を踏まえ、平成28年度は今後5年間の「沖縄の伝統的な食文化の普及推進計画」を策定するとともに、伝統的な食文化に関する展示会を開催し、約2,000人が訪れた。多くの県民が展示会に参加したことで、普及・継承に繋がる気運醸成に寄与することが出来た。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画				
事業名	当初予算	活動内容		主な財源
沖縄食文化 保存・普及・ 継承事業	8,724	担い手育成講座のカリキュラム検討及び実施を通じ、伝統的な食文化の保存・継承の核となる人材育成に取り組むほか、伝統的な食文化を情報発信するためのガイドブックの作成等を行う。		県単等

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
—	<p>①検討委員会において、具体的な取組に関する今後5年間の普及推進計画を策定することができた。</p> <p>②伝統的な食文化に関する展示会の開催を通じ、食文化の保存、価値の再認識を図り、保存・普及・継承に向けた気運醸成に繋げた。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明	<p>今後5年間の「沖縄の伝統的な食文化の普及推進計画」を策定するとともに、伝統的な食文化に関する展示会を開催し、約2,000人が訪れた。多くの県民が展示会に参加したことで、普及・継承に繋がる気運醸成に寄与することが出来た。</p>
------	--

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b> ・伝統的な食文化は、料理、食材、調理法、風俗習慣、器などの様々な要素を包含しており、既に庁内で食文化に関する取組を実施している各部局との横断的な連携を検討する必要がある。</p> <p><b>○外部環境の変化</b> ・伝統的な食文化を継承する人材の高齢化やライフスタイルの変化などから、伝統的な食文化の保存・普及・継承が危ぶまれており、早急な取組が求められている。</p>
---

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・伝統的な食文化を継承している人材の高齢化などから、早急な担い手の育成が求められているため、人材育成に関する取組を実施する必要がある。</p> <p>・伝統的な食文化を保存、普及、継承するため県民にその価値を再認識してもらうため、知識を普及し気運醸成に繋げる取組が必要である。</p>
---

4 取組の改善案(Action)

<p>・伝統的な食文化を継承している人材の高齢化などから、早急な担い手の育成が求められているため、人材育成に係るカリキュラム策定や人材育成方針などを検討する。</p> <p>・伝統的な食文化を保存、普及、継承するため県民にその価値を再認識してもらうため、伝統的な食文化に関する情報収集及び情報発信の手法を検討する。</p>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり		
施策	③文化財の適切な保存			
(施策の小項目)	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還			
主な取組	沖縄遺産のブランド開発・発信事業	実施計画 記載頁	50	
対応する 主な課題	○「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。			

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化財の適切な保存を目的に、県立博物館・美術館による旧石器人遺跡等の埋蔵文化財の発掘調査を実施する。また、出土品・遺跡等の展示・公開をし、観光産業に利活用する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	県立博物館・美術館による旧石器人遺跡の発掘調査					→	県
	出土品・遺跡等の展示・公開および観光への利活用等						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄遺産のブランド開発・発信事業	30,531	25,306	南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査からの出土品について調査研究、化学分析を行った。 また、県立博物館・美術館において「港川人の時代とその後」と題しこれまでの成果を展示する特別展を開催した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
県立博物館・美術館による旧石器(更新世)人類遺跡発掘調査の実施			-	1回
県立博物館・美術館による旧石器(更新世)人類遺跡調査研究成果に関する展示会の実施			-	3回
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	平成24年度には1万4千年前の人骨と石器、平成25年度には2万年前の人骨と貝器、平成26年度には9千年前以前の1体分の人骨、平成27年度も旧石器時代の人骨を検出し、発掘調査が順調に進んだ。平成27年度は九州歴史資料館で出張展示を開催、2,700名(29日間)の入場者があった。また、平成28年度は、沖縄県立博物館・美術館で特別展を開催し、5,253人(51日間)の入場者があった。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄遺産のブランド開発・発信事業	21,543	県外での巡回展を開催するほか、出土品の化学分析等調査研究及び成果報告書の作成を行う。	一括交付金(ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①新たに発掘された文化財については、その価値を認知させるため、より充実した調査を実施し、専門的知識に基づいた正確な情報発信を県内外に行う。</p> <p>②調査成果に関して大規模な特別展を開催し、まとまった形での情報発信を行う。また、特別展に係る図録やパンフレット等の充実をはかり、効果的な情報発信を図る。</p>	<p>①出土品についての年代測定のため、火山ガラス比分析を実施した。</p> <p>②H28.9月には、これまでの成果を米国の科学研紀要に掲載し、世界に成果を発信した。</p> <p>③H28.11月に県内で特別展、文化講座等を開催し、情報発信を行った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
遺跡調査による人骨の発見件数	1 (25年)	1 (26年)	1 (27年)	→	—
状況説明	平成24年度からH27年度の発掘調査で人骨を含めて4件の人骨(更新世=旧石器時代のもの3件、および9千年前以前のもの1件)を発見した。これら成果を適切に保存、研究調査、公開しており、貴重な文化財を保護し、後世に引き継いで行く取組を行うことができた。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p><b>○内部要因</b> ・出土した人骨や地層について、より詳細な調査を実施し、厳密な年代測定を実施する必要があること。</p> <p><b>○外部環境の変化</b> ・文化的な観光資源としての活用のため、県内への広報・発信だけでなく、県外にも積極的に事業成果を発信する必要がある。</p>
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・事業成果の正確な情報発信のため、出土品の複数の方法による年代測定、先進地での比較調査を行う等、引き続き、厳密に調査・分析を行う必要がある。</p> <p>・県内外の一般、学術関係者に対しても積極的に事業成果の発信を行う。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

<p>・発見された出土品について、平成28年度の火山ガラス比分析に加え、平成29年度は放射性炭素による年代測定を行い、厳密な年代特定を行い、これまでの成果報告書を発行する。</p> <p>・県外で巡回展及び関連イベントを開催するとともに、ポスター、パンフレット等広報を充実させ、県外の一般、学術関係者へ発信を行う。</p>
---

## 「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	
施策	③文化財の適切な保存		
(施策の小項目)	○埋蔵文化財の発掘調査、戦災文化財の復元、在外文化財の調査・返還		
主な取組	琉球王国文化遺産集積・再興事業	実施計画 記載頁	50
対応する 主な課題	○「琉球王国のグスク及び関連遺産群」をはじめ、沖縄の先人たちの英知が刻まれた貴重な文化財を適切に保護し、後世に引き継いでいくことが重要な課題である。		

### 1 取組の概要(Plan)

取組内容	戦災等により失われた8分野の工芸品製作のティーワジャ(手わざ)など王国時代の精緻で至高の技の世界を現代に蘇らせ、世界に誇る沖縄の手わざの力をモノを通して国内外へ発信し、琉球王国文化をブランドとした文化観光拠点として沖縄をアピールする。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
				資料調 査・設計	王国文化 遺産の再 興による 復元品制 作	→	県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

### 2 取組の状況(Do)

#### (1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成28年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
琉球王国文化遺産集積・再興事業	152,695	150,657	8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)の模造復元品の制作を開始し、染織4件、金工3件の計7件が完成した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
模造復元品の製作			—	7件
推進状況	推進状況の判定根拠及び平成28年度取組の効果			
順調	平成27年度に作成した実施設計書を元に、今年度から8分野(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)合計55件の模造復元品の制作を開始し、平成28年度は、染織4件、金工3件の計7件が完成した。			

#### (2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成29年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
琉球王国文化遺産集積・再興事業	184,206	平成29年度は、前年度から引き続き模造復元品の制作を行うとともに、新たに絵画、木彫、石彫等合計9件の制作を開始する予定である。	一括交付金(ソフト)

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

平成28年度の取組改善案	反映状況
<p>①戦災等により失われた8分野の工芸品製作のティーワジャ(手わざ)等、王国時代の至高の技を現代に再現させるため、個々の模造復元の製作管理体制の強化を図る。</p> <p>②貴重な文化財を後世に残すため復元の作業工程を記録保存管理する。</p> <p>③琉球王国文化遺産の成果をより効果的に発信する方法を調査する。</p>	<p>①外部有識者からなる監修者会議を開催し、工芸関係者、県立芸術大学、東京芸術大学等の協力により復元品を製作した。</p> <p>②技の伝承や再興のため、復元の作業工程を、文字、画像、映像により記録した。</p> <p>③沖縄県立博物館・美術館の常設展示や特別展のほか県外に向けての効果的な発信方法について調査を行った。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	<p>沖縄の貴重な文化財を後世に引き継いでいくことを目的に、戦災等により失われた8分野の工芸品製作の手わざを復元する。平成27年度には、監修者会議や復元資料の分析を行い製作仕様を確認し、実施設計書を作成した。平成28年度は設計書に基づき復元品の製作を行った。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

<p>○内部要因</p> <p>・実際の製作過程で新たな知見を得ることがあるため、工程管理に注意しながら製作を進める必要がある。それら各分野の模造復元に係る基本情報と製作工程を記録保存し、後世のための基礎資料とする必要がある。</p>
<p>○外部環境の変化</p> <p>・復元にあたっては、X線等で残存する資料から原材料を調査したうえで、現代で調達できる原材料や用具を確保しながら進める必要がある。</p>

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<p>・製作品が8分野にわたりかつ専門性が求められるため、引き続き監修者と製作者の情報共有等の連携を強化する等、管理体制に万全を期す必要がある。</p> <p>・復元品の展示公開について、連携予定の博物館と調整を行い効果的な発信につなげる。</p>
--

4 取組の改善案(Action)

<p>・適正な製作を行うため8分野の監修者会議を開催する。また、模造復元資料の製作過程を論文等で発表する。</p> <p>・展示発信に係る県内博物館等施設との検討調整を行う。</p>
---